

# 研修参加報告書

令和 2年 1月29日

会 派 名 江政クラブ  
会派代表者 河合 正猛

(参加者： 岡本英明 )

研修参加の結果について、次のとおり報告します。

年 月 日	令和2年1月9日(木)～10日(金)
研修時間	13:00～17:30、 9:00～14:45
研修場所	全国市町村国際文化研修所(JIAM)
研修内容	令和元年度市町村議会議員研修「防災と議員の役割」  講師：首都大学東京 名誉教授 中林 一樹 氏 跡見学園女子大学観光コミュニティ学部 コミュニティデザイン学科 教授 鍵屋 一 氏 防災企業連合関西そなえ隊事務局 湯井恵美子 氏 熊本市議会議員 村上 博 氏

# 研修参加報告書

年月日	令和2年1月9日（木）～10日（金）
研修時間	13:00～17:30、 9:00～14:45
研修場所	全国市町村国際文化研修所（JIAM）
研修内容	<p>令和元年度市町村議会議員研修「防災と議員の役割」</p> <p>講師：首都大学東京 名誉教授 中林 一樹 氏          跡見学園女子大学観光コミュニティ学部          コミュニティデザイン学科 教授 鍵屋 一 氏          防災企業連合関西そなえ隊事務局 湯井恵美子 氏          熊本市議会議員 村上 博 氏</p>
<p>■目的</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 平時からの防災の心構えや災害時の対応を理解し、議員の役割を考える。</li> <li>・ 受講者間で防災に関する現状や課題を共有し、対策を討議する。</li> <li>・ 災害時・復興期の事例から、議員として何ができるか、住民とどのようにかわるかを学ぶ。</li> </ul>	
<p>■内容</p> <p>1日目          （講義内容）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地域防災力を向上させるために              首都大学東京 名誉教授 中林 一樹 氏</li> <li>・ 平時の防災と議員の役割              跡見学園女子大学観光コミュニティ学部              コミュニティデザイン学科 教授 鍵屋 一 氏</li> </ul> <p>（演習内容）ワークショップ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 平時の防災と議員の役割              跡見学園女子大学観光コミュニティ学部              コミュニティデザイン学科 教授 鍵屋 一 氏              防災企業連合関西そなえ隊事務局 湯井恵美子 氏</li> </ul> <p>中村氏の講義では、地域防災力を向上させるために、災害の激化と地域の防災力の課題について学びました。</p> <p>1. 荒ぶる21世紀と地域社会の脆弱化</p>	

2. 災害が複合化・広域化する 21 世紀：二つの「複合災害」と「広域巨大災害」
3. 日本の高齢社会化と巨大災害時の支援体制
4. 二つの「危機管理」と「地域防災力」
5. 事前情報の有無で異なる「予知災害」と「突発災害」
6. 突発災害（地震）のリスク管理としての「事前防災」
7. 事後のクライシス管理としての「災害対応」
8. クライシス管理としての「応急復旧」
9. 将来のリスク管理としての「災害復興」
10. まとめ～自然災害における危機管理と防災～

鍵屋氏の講義では、平時の防災～マネジメントを中心に～を学びました。

1. 実際におきた災害の事例から、
  - ・大災害の対応は、初めの 1 ヶ月間は 60 点できれば十分である。
  - ・報道された地域と報道されていない地域では、救援物資や復旧の進み具合等の格差が生まれる。
  - ・エレベーター閉じ込め台数の地震管制運転装置があっても全部機能するとは限らない。
  - ・避難所には多くの人が避難しているが中心部にはお茶のみ場がある方が問題解決していく。
  - ・ダンボールベッドは誤嚥やインフルエンザが減るメリットがある。など
2. 脆弱な基礎自治体の防災体制と実効性を欠く地域防災計画
3. レジリエンスの 3 要素 + 1
  - ・危機を予測する力
  - ・危機を予防する力
  - ・危機に対応する力
  - ・危機から回復する力 回復の仕方はそれぞれでよい
4. 組織は「非日常」が苦手
  - ・危機時は、臨機応変な対応が必要
  - ・非日常は内容、程度、過程が多様で、マニュアル化にも限度がある
  - ・職員は危機管理を敬遠しがち
5. なぜ、人は備えないのか。なぜ行政の災害対策の優先順位は低いのか。
  - ・正常化の偏見「自分は大丈夫」  
自分にとって都合の悪い情報を無視したり、過小評価してしまう人間の特性。
  - ・逃げない非常ベル  
初着のリスク情報の無視

演習では鍵屋氏を講師に、平時の防災と議員の役割と題してワークショップを行いました。大災害時に行政が効果的に対応するために・・・平時にすべきこと、として各班の成果物のまとめが出ました。

1. 災害に学ぶ（暗黙知）  
生々しい体験談を読む
2. 課題、教訓、知恵を抽出する（形式知）
3. ワールドカフェで話し合っ、知恵、教訓を共有する

## 2日目

### （講義内容）

- ・ 災害弱者への対応～熊本地震における経験より～  
熊本市議会議員 村上 博 氏
- ・ 災害時・復旧・復興期の議員の役割  
跡見学園女子大学観光コミュニティ学部  
コミュニティデザイン学科 教授 鍵屋 一 氏

### （演習内容）ワークショップ

- ・ 災害時・復旧・復興期の議員の役割  
跡見学園女子大学観光コミュニティ学部  
コミュニティデザイン学科 教授 鍵屋 一 氏  
防災企業連合関西そなえ隊事務局 湯井恵美子 氏

### （講義内容）

- ・ ふりかえりとまとめ  
跡見学園女子大学観光コミュニティ学部  
コミュニティデザイン学科 教授 鍵屋 一 氏  
防災企業連合関西そなえ隊事務局 湯井恵美子 氏

村上氏の講義では、熊本地震における経験から、震災弱者への対応について学びました。

1. 地域の避難所はどうだったのか
  - ・ 多くの人であふれる避難所
  - ・ 車中泊を余儀なくされる人たち
2. 障害者の避難先について
  - ・ 福祉避難所に全員は避難できない
  - ・ 地域の避難所にも避難できない
  - ・ ほとんどの人が自宅避難
3. インクルーシブ避難所とは。なぜ実現できたか
  - ・ 広域避難所となった熊本学園大学が取り組んだ避難所の活動
  - ・ 多目的トイレや建物内での導線の確保
  - ・ 学校の理解による障害者、高齢者への合理的配慮
  - ・ 介助をすることができる人員の確保
  - ・ 全国からのボランティア支援
4. 避難だけでは終わらない生活再建に向けて
  - ・ 従来のバリアフリー仮設住宅について

・ 真のバリアフリー仮設住宅について

鍵屋氏の講演では災害時・復旧・復興期の議員の役割として、その考え方と行動について学びました。

1. 命を守る地震対策の優先順位
  - ・ 住宅の耐震化
  - ・ 室内の安全化
2. 住宅耐震化の被害軽減効果
3. 耐震化政策の新戦略
4. 高齢者標準社会の耐震化推進策
5. 応急対応期の議会・議員
  - ・ 「じゃまをしない」を超えて
6. 復旧・復興期の議会・議員
  - ・ 通常時の対応を超えて

演習では湯井氏を講師に、災害時の議会・議員活動と題してワークショップを行いました。「大災害時に議会、議員が効果的に対応するために」をテーマに、東日本大震災での宮城県東松島市議会議員の行動を演習資料として各班の成果物のまとめができました。

1. 災害に学ぶ
2. 課題、教訓、知恵を抽出する
3. ワールドカフェで話し合っ、知恵、教訓を共有する

鍵屋氏と湯井氏の講義では議会、議員の役割について、ふりかえりとまとめとして学びました。

1. 応急対応期の心得
2. 応急対応期の議会、議員の方向性
3. 議会のサイレントタイム
4. 災害時の議会、議員の役割
  - ・ 地域での支援活動
  - ・ 情報収集と災対本部への提供
  - ・ 災対本部情報等の住民への提供、情報発信
  - ・ 視察の受け入れ
  - ・ 要望活動
  - ・ 復興計画
5. 防災の正四面体
  - ・ 自助、共助、公助、近助
  - ・ 決め手は「ご近所力」

6. 地域防災計画がつなぐ自助・公助

- ・ 近助と公助の役割分担
- ・ 地区防災計画とは

7. 福祉事業者も不十分だ

- ・ 自治体間連携の提案
- ・ 社会課題の解決を目指すふるさと納税の提案

8. これからの防災は

■所感

今回の市町村議会議員の研修では、日本の何処にいても地震がある訳で、今後起こり得る可能性のある大災害に対し、平時から如何に備えておく事が重要かを考えさせられました。

高齢化社会においては、自助、共助に加え近助の力が重要であり、公助はそのバックアップであるということが心にかかります。また、高齢者ほど自助が重要であるという事を初めてお聞きしました。人間の本能である自分は大丈夫という正常化の偏見を訓練で正していく、訓練の意味合いを伝える大切さを繰り返し聞くにつけ、防災訓練の取り組み方を検討する必要性を感じました。

議会・議員の役割として、本当に作られている防災計画が実効性ある計画であるのか、平時から確認しておく必要性をお聞きしました。役に立たない事が多いと言う実体験からの話には、作ってあればよいという安心感とは次元の違う内容でした。再度、見直す必要性を感じました。

また、事前にできる事、応急対策期、復旧・復興期の対応等様々な事を、平時から想像し工夫し決断するまでを訓練しておく事で、実際の緊急時に対応できるのであれば、あろうという言葉には共感しました。